

平成30年度上半期 経営報告

平成30年11月27日

目次

主な業務執行の状況

□地域経済活性化への取り組み	5
□お客さま満足度向上への取り組み	10
□人材育成への取り組み	11
□社会貢献への取り組み	13

5-1 純資産の状況	26
5-2 自己資本の状況	27
5-3 不良債権の状況	28
6-1 貸借対照表	29
6-2 損益計算書	30
7 平成30年度計画の進捗状況	31

平成30年度上半期の業績

1-1 預金積金の残高	18
1-2 預金積金の内訳	19
2-1 貸出金の残高	20
2-2 貸出金の内訳	21
3-1 損益の状況	22
3-2 損益の増減要因	23
4-1 有価証券の運用状況	24
4-2 有価証券の評価損益	25

本資料に記載の計数は、単位未満を切り捨てて表示しております。なお、合計等は原数値で計算してから切り捨てて表示しておりますので、表上の合計が一致しない場合があります。

主な業務執行の状況

◆地域創生

○「へきしんビジネス商談会 IN 御園」を開催

平成30年7月、御園支店（名古屋市）において、当金庫初の
単独によるビジネス商談会を開催



・発注企業
・商談申込件数
・商談実現件数

23社
141社 400件
97社 147件

◆課題解決支援

○創業・新規事業を支援

ワンストップ創業支援窓口 上半期実績	相談件数 34件	金融支援件数 24件
-----------------------	-------------	---------------

○事業承継・M & A業務の課題解決支援強化

【事業承継・M & A】 上半期実績	相談件数 124件	金融支援件数 14件
-----------------------	--------------	---------------

○お客様の販路獲得を支援するためビジネスマッチングを実施

【ビジネスマッチングサービス】 上半期実績	商談応募件数 86件	成約件数 9件
--------------------------	---------------	------------

◆課題解決支援

○専門分野チームによる課題解決支援

【医療・介護分野】 上半期実績	相談件数 46件	金融支援件数 42件
----------------------------	---------------------	-----------------------

○成長事業分野に対する積極的な資金支援を実施

上半期実績	医療・介護・健康	18件	10億円
	環境・エネルギー	9件	3億円
	その他 (社会インフラ・子育て事業等)	15件	8億円
	合計	42件	23億円

※平成22年からの累計 1,379件 825億円

◆課題解決支援

○安城市が運営するビジネス支援施設との連携強化

安城ビジネスコンシェルジュ(通称ABC)へ職員1名をスペシャルアドバイザーとして派遣

【当金庫職員による経営相談受付】
上半期実績

80先(168件)



◆海外ビジネス支援

○海外事業展開のサポート

タイの進出企業を現地で積極的にサポート。



上半期実績

現地サポート 113件

※「営業店ビジネスサポートデスク」を活用した
海外事業展開にかかる相談対応 上半期 31件

◆お客さまの利便性向上へ向けたチャネルの充実

○「へきしんアプリ ～スマート管理ぷらす～」に新機能を追加



トップ画面をリニューアル



「各種手続き」の対象を拡大

ダウンロード数
2万件突破

◆専門力を持った人材の育成

職員の自己啓発、能力開発を支援することで、お客さまのさまざまなニーズにお応えできる専門力を持った人材の育成に取り組んでいます。



主な公的資格等の取得状況

資格名	取得者数
中小企業診断士	16
社会保険労務士	6
行政書士	8
宅地建物取引士	124
1級FP技能士	36
2級FP技能士	754
証券アナリスト	3

平成30年10月1日現在

◆女性の活躍場所の拡大

○ライフアドバイザー
女性営業担当の活躍



10月より新たにライフアドバイザー
になった4名の女性職員

○女性活躍推進
プロジェクトチームの発足



ミーティング風景

◆地域への貢献、地域行事への参加

○平成30年7月
西日本豪雨義援金の寄託



石川理事長 神谷安城市長

○地域の行事への参加



安城七夕まつり開催日に浴衣で窓口営業



有松絞りまつりにボランティア参加

◆振り込め詐欺など特殊詐欺防止への取り組み

店頭・ATMコーナー等でお客さまに注意を呼びかけ、被害の未然防止に取り組んでいます。

平成30年度上半期
2件の未然防止



振り込め詐欺未然防止により
警察署より感謝状を受領

◆職場体験、インターンシップを実施

- 地域の小学生・中学生の
職場体験を受け入れ
- 高校生、大学生の
インターンシップを受け入れ



大学生のインターンシップ

**地域の明日を創る人づくりをお手伝いすることで、
地域の未来に貢献したいと考えています。**

◆へきしんフォトコンテストの実施

愛知県のすばらしさの再発見

テーマ「心に残った“愛知の風景”」 応募総数 220名



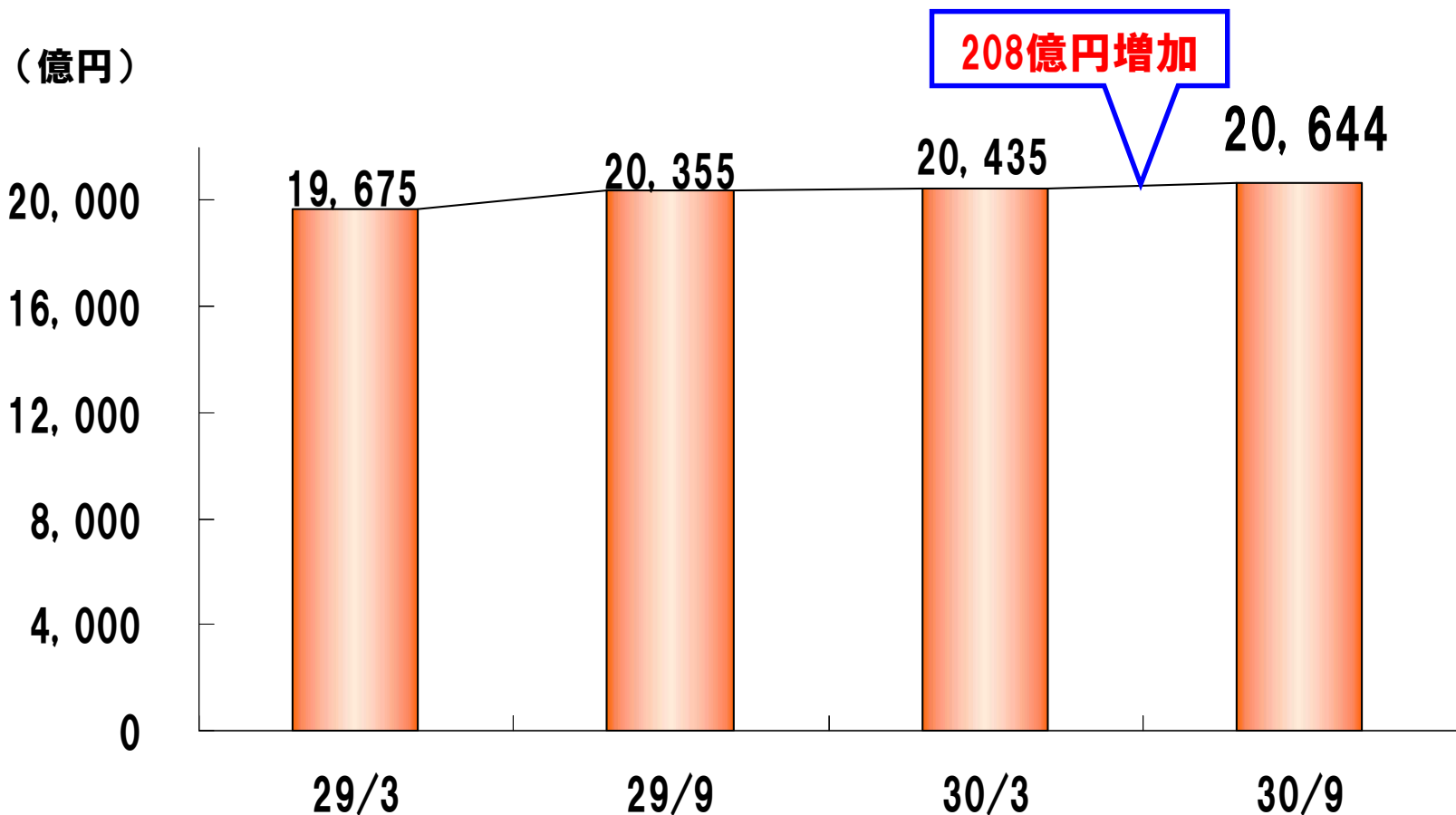
最優秀賞作品 「湖畔の朝」 石川 幸雄 様

- 平成30年11月28日(水)から
入賞作品を御園支店の
4階ギャラリーで展示
- 一部入賞作品を
2019年版カレンダー写真に採用

平成30年度上半期の業績

1-1 預金積金の残高

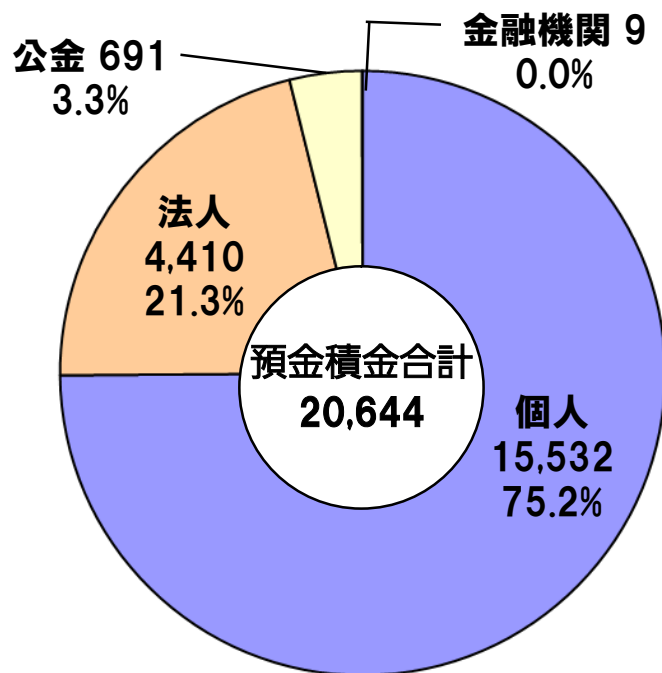
- 預金積金残高は2兆644億円。平成30年3月末比208億円増加。
- 普通預金を中心に増加。



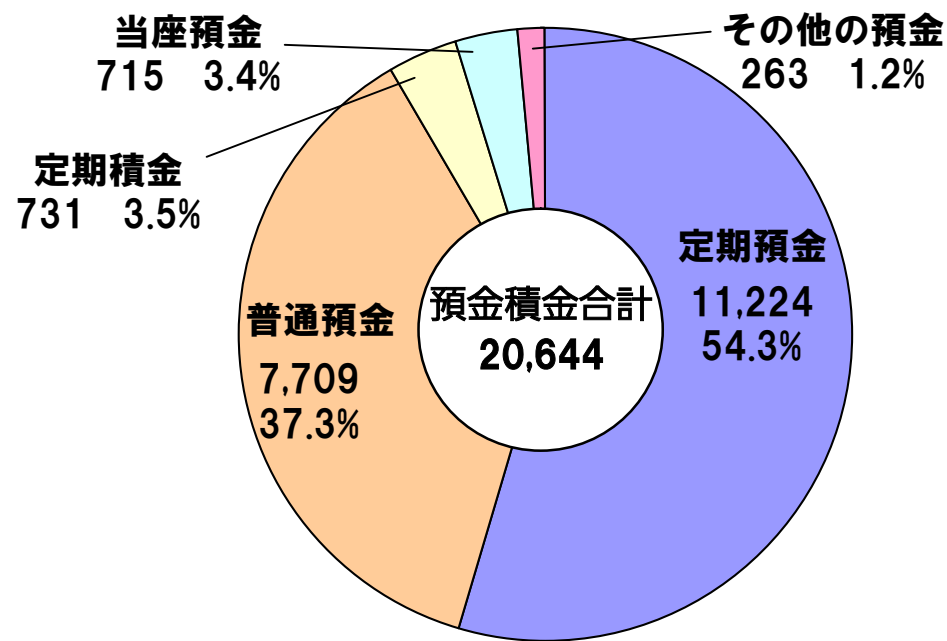
1-2 預金積金の内訳

- 個人のお客さまからの預金積金が全体の75.2%。
- 科目別では、定期預金が全体の54.3%。

■ 預金者別預金積金残高



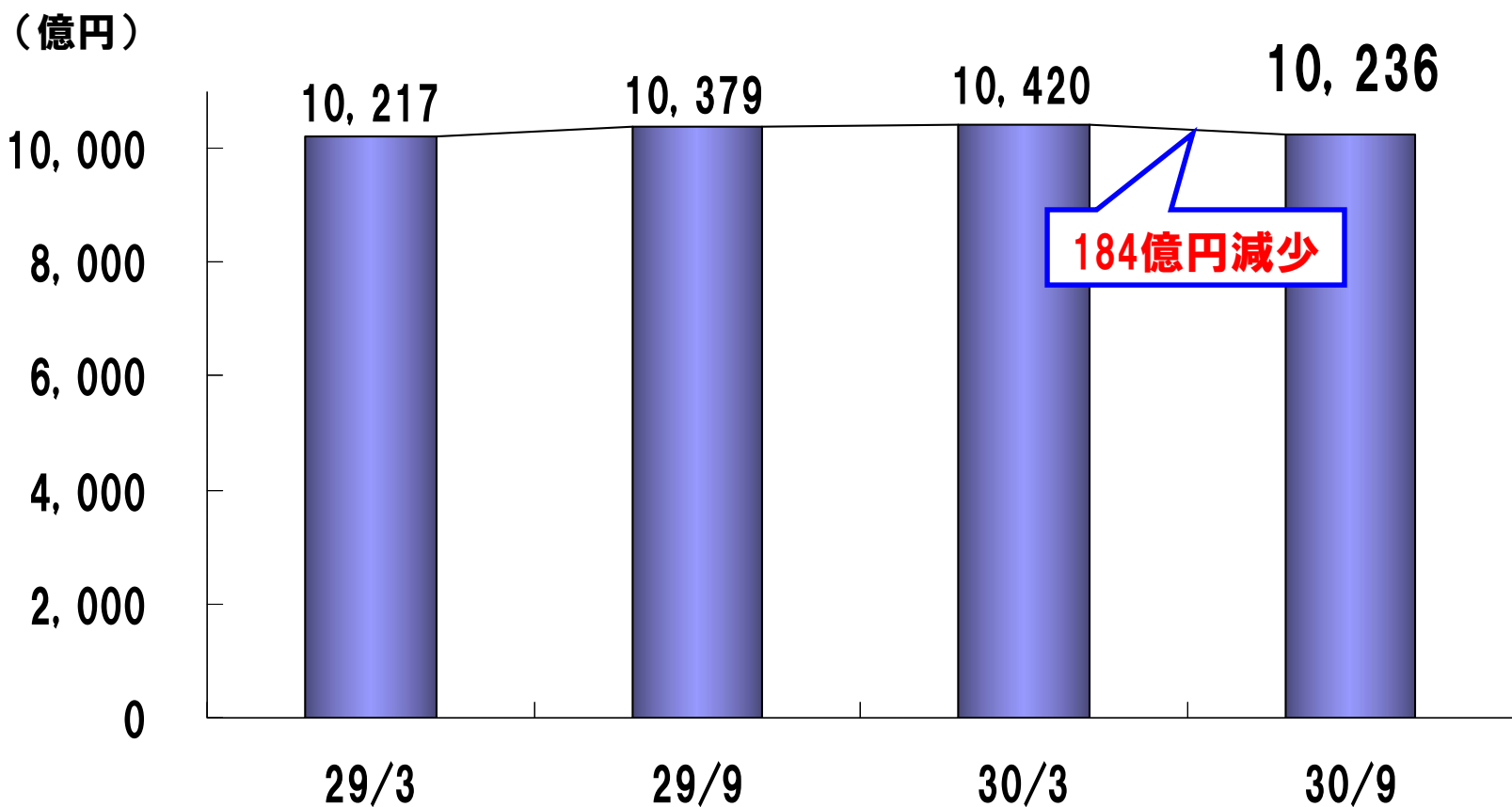
■ 科目別預金積金残高



(平成30年9月末、単位：億円、%は全体に占める割合)

2-1 貸出金の残高

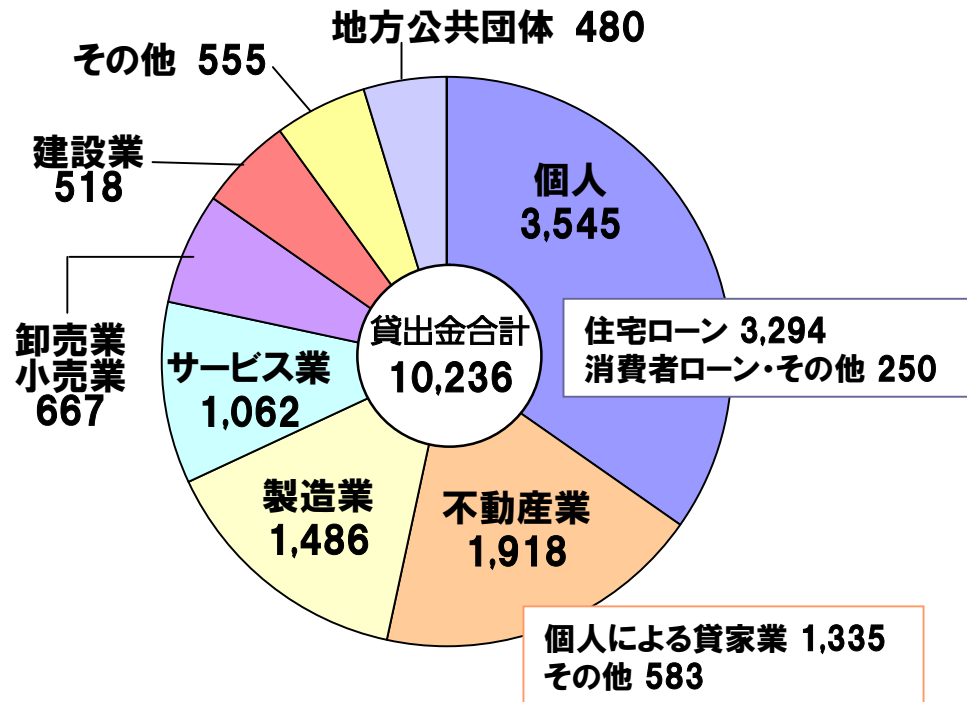
- 貸出金残高は1兆236億円。平成30年3月末比184億円減少。
- 住宅ローンなど個人向けの貸出金が増加した一方、事業者向けの貸出金が減少。



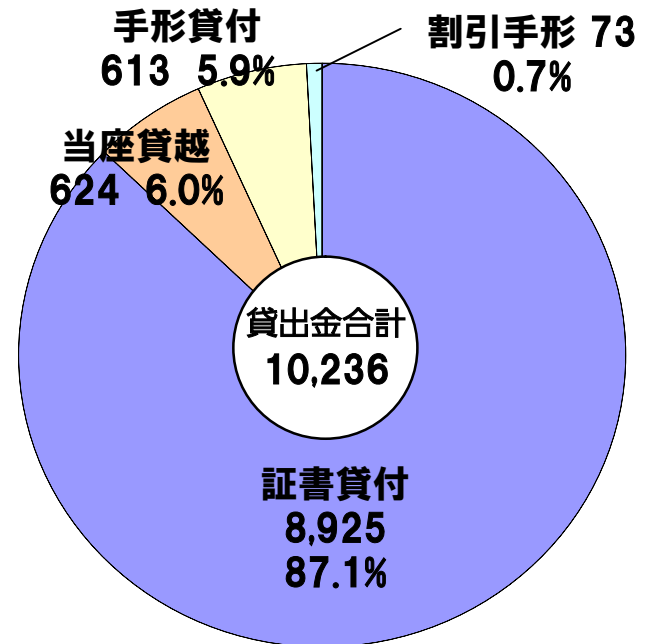
2-2 貸出金の内訳

- 特定の業種に偏ることなく、幅広い業種の資金需要に対応。
- 事業者向けの貸出金が全体の60.6%、個人向けの貸出金が全体の34.6%。

■ 業種別貸出金残高



■ 科目別貸出金残高

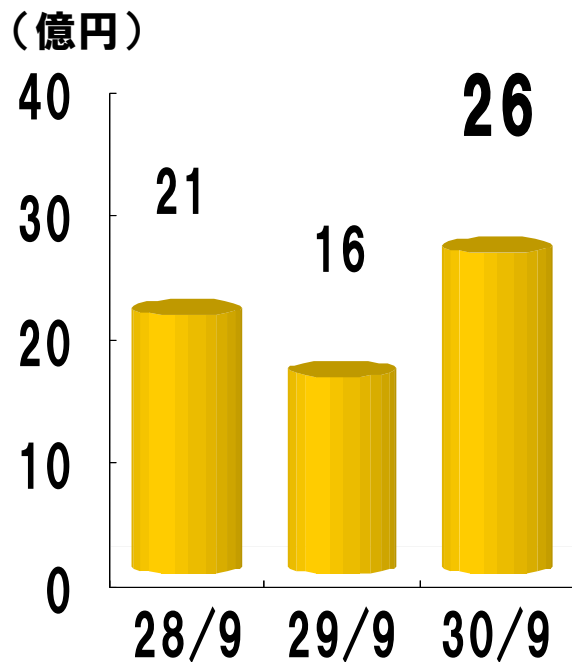


(平成30年9月末、単位：億円、%は全体に占める割合)

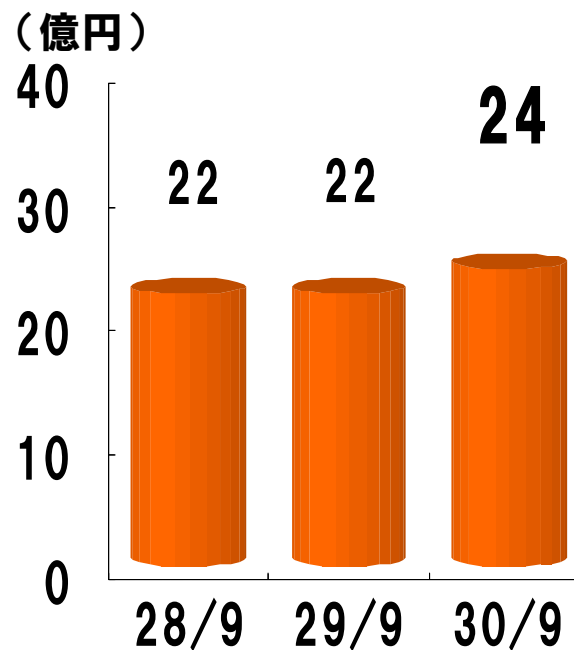
3-1 損益の状況

- 業務純益は、前年同期比9億円の増加。
- 経常利益は、前年同期比1億円、当期純利益は、前年同期比67百万円の増加。

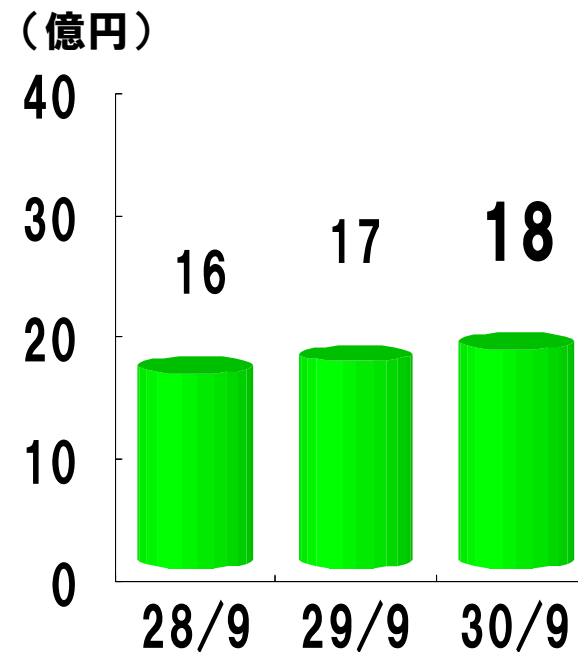
■ 業務純益



■ 経常利益



■ 当期純利益



3-2 損益の増減要因

(単位：百万円)

	平成29年度 上半期	平成30年度 上半期	増 減
業務粗利益	10,023	10,575	551
資金利益	9,348	9,669	320
役務取引等利益	498	465	△32
その他業務利益	176	440	263
(うち国債等債券関係損益)	159	408	249
経費	8,372	7,869	△502
人件費	5,382	4,818	△564
物件費	2,741	2,785	44
一般貸倒引当金繰入額	—	85	85
業務純益(※1)	1,651	2,620	969
実質業務純益(※2)	1,651	2,705	1,054
臨時損益	640	△175	△816
不良債権処理損益	161	△421	△583
株式等関係損益	412	158	△253
経常利益	2,290	2,443	152
特別損益	△8	0	9
当期純利益	1,740	1,807	67

(単位：百万円)

(資金利益の内訳)	平成30年度 上半期	増 減
資金運用収益	10,309	304
貸出金利息	5,559	△217
預け金利息	513	△6
有価証券利息配当金	4,026	524
資金調達費用	641	△16
預金利息	636	△15

賞与支給時期の変更に伴い、賞与引当金が減少しました。

有価証券利息配当金の増加などにより、業務純益は前年同期比969百万円増加の26億20百万円となりました。

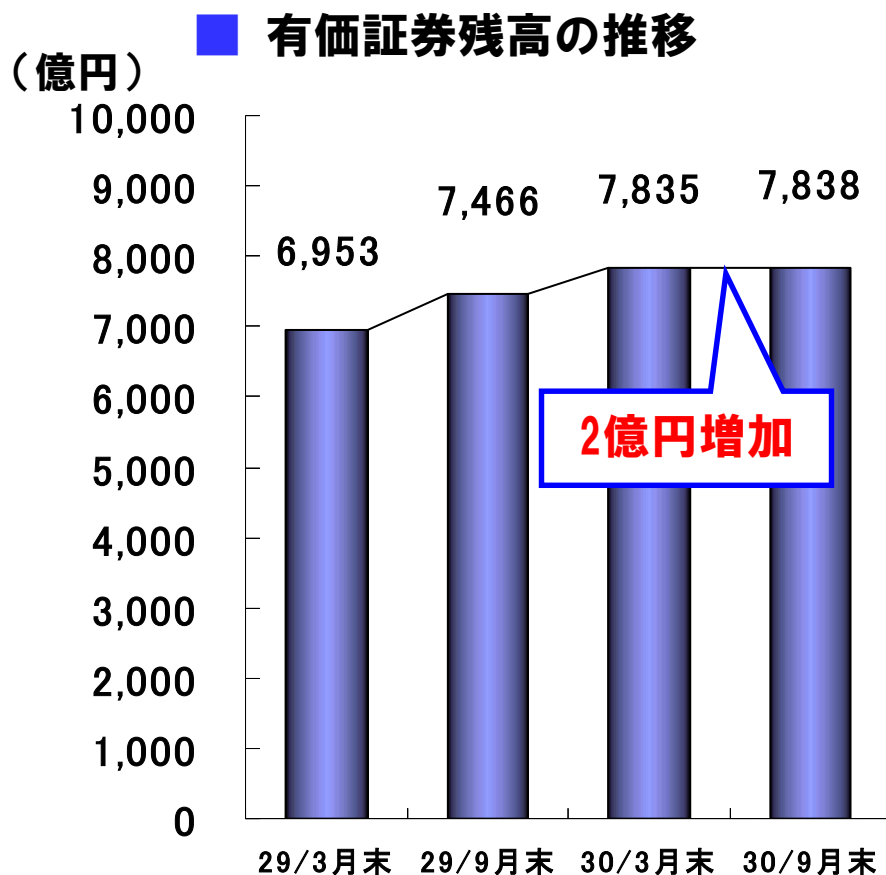
不良債権処理費用の増加などにより、経常利益は前年同期比152百万円増加の24億43百万円にとどまりました。

※1 業務純益とは、金庫の基本的業務に係る利益です。

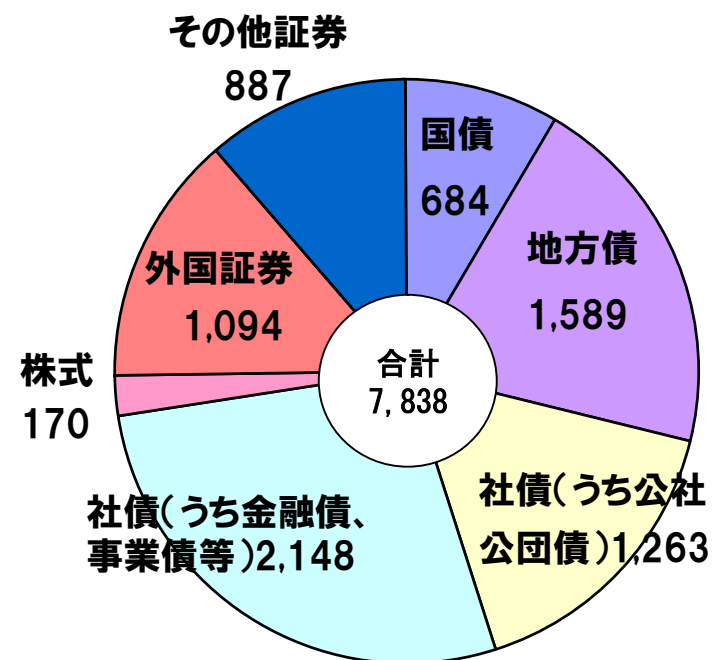
※2 実質業務純益とは、業務純益から一般貸倒引当金繰入額を除いた、より本業の収益力を表す利益です。

4-1 有価証券の運用状況

- 有価証券残高は7,838億円。平成30年3月末比2億円増加。
- 安全性重視の運用を行っています。



■ 有価証券の内訳 (平成30年9月末) (億円)



4-2 有価証券の評価損益

- 有価証券の評価損益は129億円。平成30年3月末比57億円減少。
- 長期金利の上昇により債券の評価損益が減少したものの、引き続き高い水準の評価損益を維持。

有価証券の評価損益

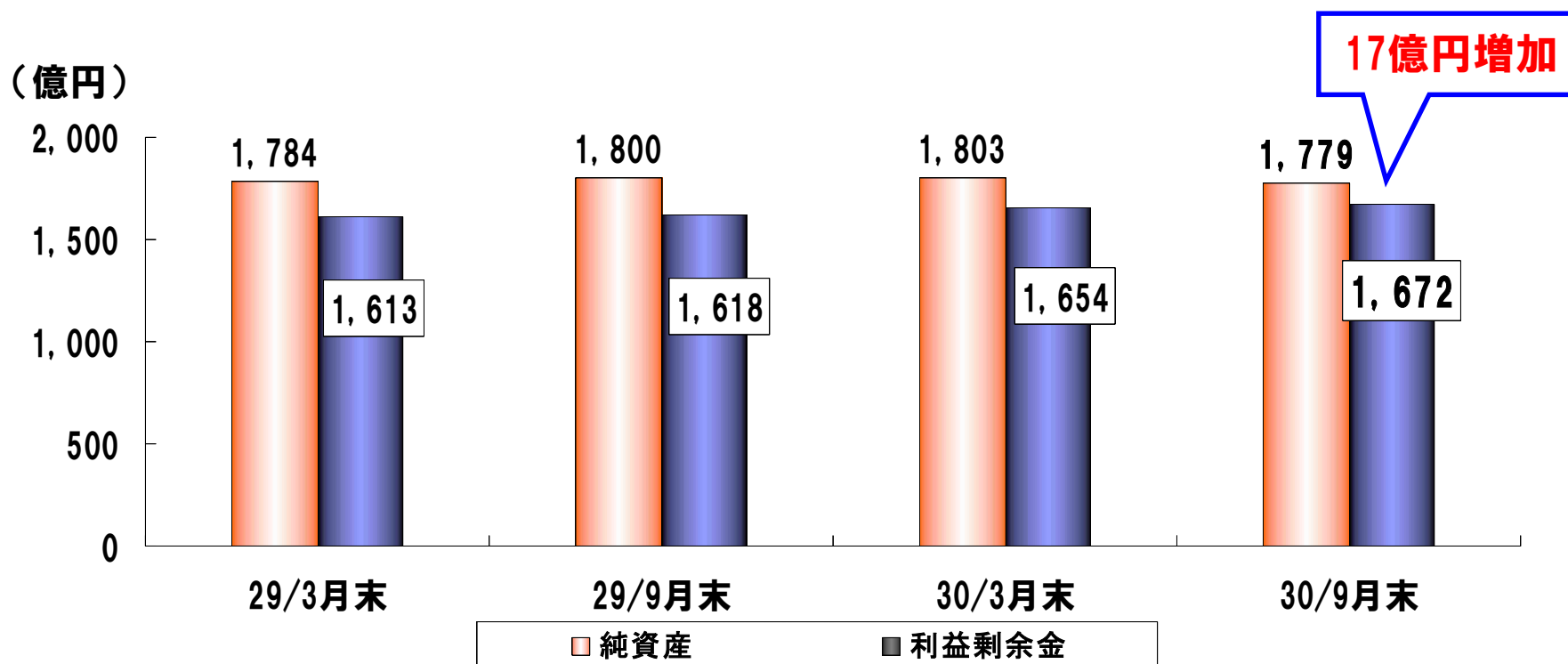
(億円)

	平成30年3月末	平成30年9月末	増 減
有価証券 計	187	129	△57
株 式	62	63	1
債 券	139	96	△43
その他	△13	△29	△15

※その他は、外国証券、投資信託等

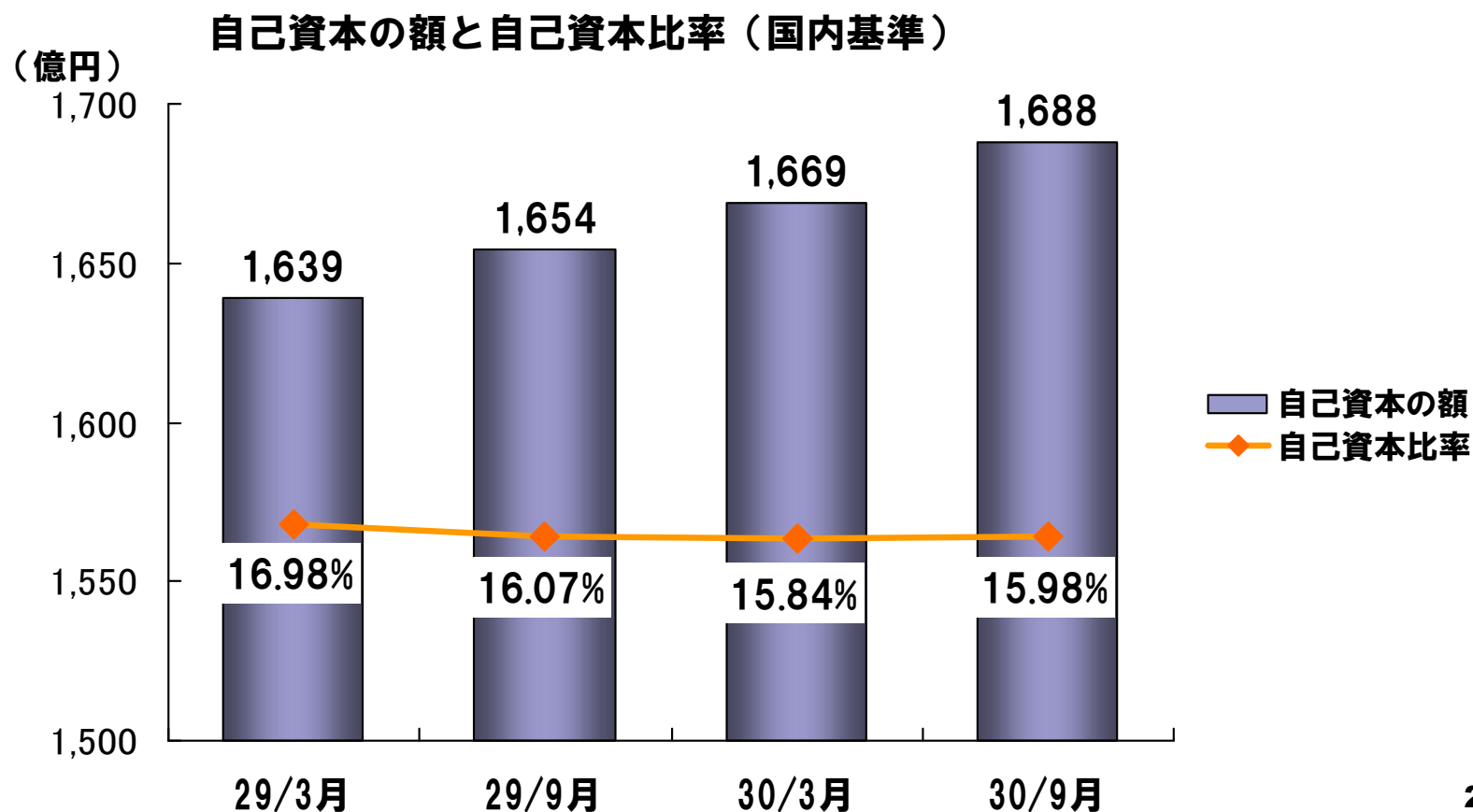
5-1 純資産の状況

- 純資産は、有価証券評価差額金の減少により、24億円減少の1,779億円。
- 創業以来の利益の積立金である利益剰余金は、17億円増加の1,672億円。
- 純資産に占める利益剰余金の割合は93.9%と、純資産の質の高さが特徴。



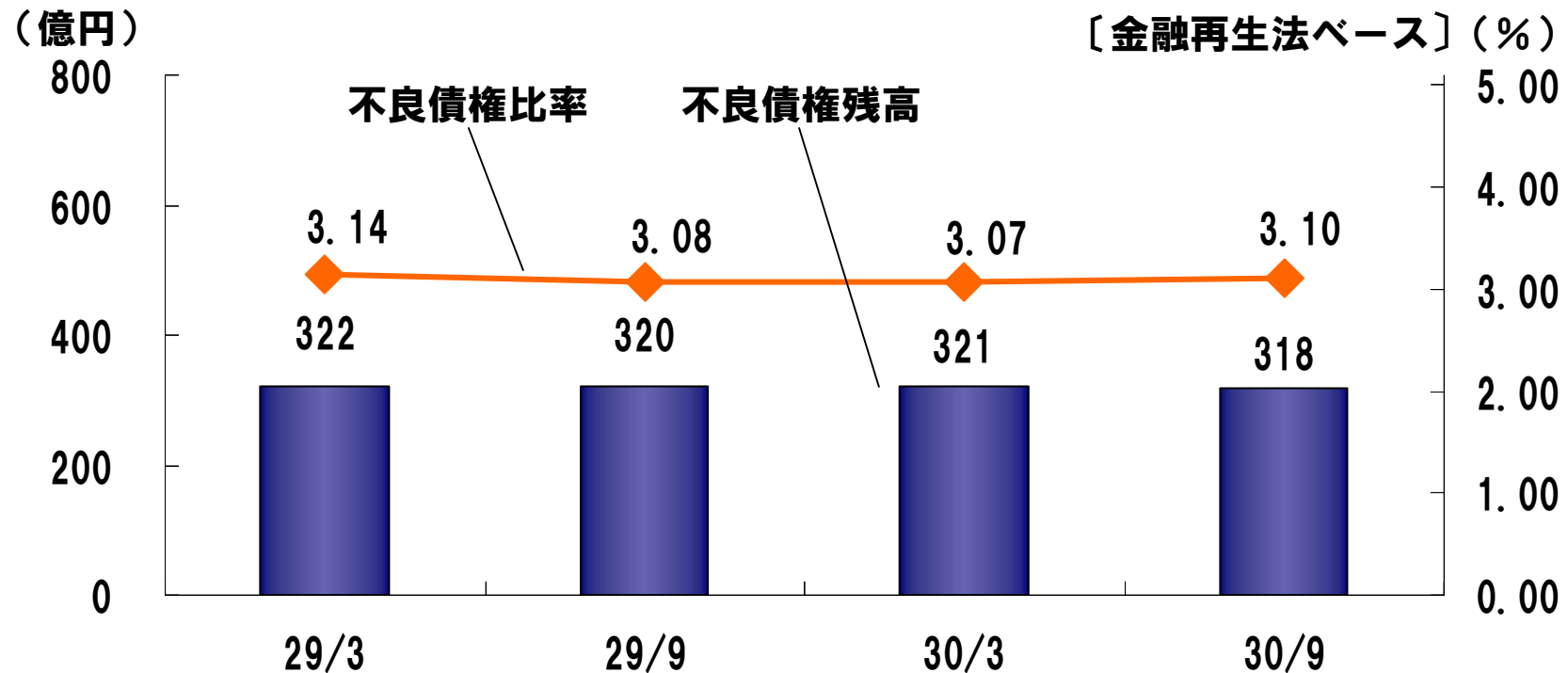
5-2 自己資本の状況

- 自己資本の額は、毎期の利益計上により着実に増加。
- 自己資本比率は、平成30年3月末比0.14ポイント上昇し、15.98%。
- 信用金庫に求められる国内基準4%を大幅に上回っています。



5-3 不良債権の状況

- 不良債権残高は、2億円減少し、318億円。
- 不良債権比率は、0.03ポイント上昇し、3.10%。
- 地域経済への影響を十分考慮しつつ、引き続き「事業再生・経営支援活動」を主体に改善に努める方針。



※当金庫は債務者に対する債権のうち、回収可能性がないと判断した部分について、直接貸借対照表から減額する部分直接償却を実施しています。

6-1 貸借対照表 (平成30年9月末現在)

科 目	金 額
(資産の部)	百万円
現 金	24,851
預 け 金	481,679
買 入 金 銭 債 権	3,222
金 銭 の 信 託	5,971
商 品 有 価 証 券	32
有 価 証 券	783,836
貸 出 金	1,023,620
外 国 為 替	670
そ の 他 資 産	11,836
有 形 固 定 資 産	24,003
無 形 固 定 資 産	572
債 務 保 証 見 返	1,896
貸 倒 引 当 金	△2,888
(うち個別貸倒引当金)	(△2,007)
資 産 の 部 合 計	2,359,307

科 目	金 額
(負債の部)	百万円
預 金 積 金	2,064,401
借 用 金	104,850
外 国 為 替	50
そ の 他 負 債	6,561
賞 与 引 当 金	188
退 職 給 付 引 当 金	485
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	424
偶 発 損 失 引 当 金	215
睡 眠 預 金 払 戻 損 失 引 当 金	157
繰 延 税 金 負 債	2,142
債 務 保 証	1,896
負 債 の 部 合 計	2,181,374
(純資産の部)	
出 資 金	1,248
利 益 剰 余 金	167,218
会 員 勘 定 合 計	168,467
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	9,465
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	9,465
純 資 産 の 部 合 計	177,932
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	2,359,307

6-2 損益計算書（平成30年4月1日～9月30日）



科	目	金額
		百万円
経常収益		12,456
資金運用収益		10,309
貸出金利息		5,559
有価証券利息配当金		4,026
役員取引等収益		1,377
その他業務収益		441
国債等債券売却益		409
その他経常収益		327
経常費用		10,013
資金調達費用		641
預金利息		615
役員取引等費用		912
その他業務費用		1
経費		7,855
人件費		4,803
物件費		2,785
その他経常費用		602
貸出金償却		276

経常利益	2,443
特別利益	0
特別損失	0
税引前当期純利益	2,443
法人税、住民税及び事業税	645
法人税等調整額	△10
法人税等合計	635
当期純利益	1,807
繰越金（当期首残高）	616
当期末処分剰余金	2,424

7 平成30年度計画の進捗状況

	項目	30年9月期 (半期)実績	30年9月期 (半期)計画	計画対比	31年3月期 年度計画
規模	預金平均残高	2兆497億円	2兆443億円	+54億円	2兆500億円
	貸出金平均残高	1兆340億円	1兆377億円	△37億円	1兆410億円
収益性	経常利益	24億円	26億円	△2億円	53億円以上
健全性	自己資本比率	15.98%	—	—	15.50%以上
	不良債権比率 (金融再生法ベース)	3.10%	—	—	3.1%未満

※健全性を表す自己資本比率、不良債権比率は年度計画を設定していますが、半期計画は設定していません。

本日は、臨時総代会にご参加いただき、誠にありがとうございました。
本日の説明内容に関するご照会等がございましたら、下記までお願いいたします。

【お問い合わせ先】
碧海信用金庫
総合企画部 企画グループ
TEL : 0566-77-8102

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより、変動する可能性があることにご留意ください。
また、本資料に掲載されております計数につきましては、会計監査人の監査を受けておりません。